

アジア獣医師会連合 (FAVA) 代表者会議

第33回アジア獣医師会連合 (FAVA) 代表者会議は、8カ国、15名の参加者を集めて、3月29日 (木)、港区白金台の八芳園にて開催された。FAVA会長の台湾獣医師会のチャン氏による開会の辞の後、日本獣医師会の近藤副会長から歓迎の挨拶とともに、先の東日本大震災における各国の援助に謝意が表された (図1)。

続いて、第32回FAVA代表者会議の議事録が承認され、さらに、参加各国の獣医事に関する現状報告が行われた。日本獣医師会からは、マイクロチップによる個体識別事業に関する報告が行われた。参加各国の関心は高く、多くの質問が寄せられた。

午後には、FAVA活動指針について検討が行われるとともに、今後の活動を円滑に行うために、財務委員会、政策委員会 (動物福祉と家畜衛生、卒後教育、ネットワークの各小委員会を含む) の新設が決定された。日本

獣医師会は、動物福祉と家畜衛生、卒後教育の小委員会に参加することとなった。

また、今回オブザーバーとして参加したアフガニスタン獣医師会のサフィ氏から、同国の獣医事と畜産の現状と課題について報告があり、参加者は熱心に耳を傾けていた。その後、同国獣医師会のFAVA加盟が承認された。

次回のFAVA代表者会議は、台湾 (台北) にて2013年1月4日～7日に開催される大会の会期中に開催される予定である。

夕刻の晩餐会には、日本獣医師会から近藤副会長、矢ヶ崎専務理事が出席し、各国代表者と親しく懇談された。

翌30日には、東京農工大学農学部附属動物医療センターの見学ツアーが開催された。

初めに、同大学の松永 是学長、西村直章副学長、



図1 歓迎の挨拶と各国の援助に謝意を表する近藤副会長



図3 第1シェルター (飯野シェルター) では、森澤道明福島県獣医師会会長理事より詳細な説明があった



図2 MRIの画像を熱心に見学するFAVA参加者



図4 第2シェルター (三春シェルター) を見学するFAVA参加者

国見裕久農学部長から歓迎の挨拶があり、その後、動物医療センター伊藤博教授の案内で、附属動物医療センターに移動し、施設の説明を受けた。処置室や手術室などの他、CTスキャンやMRI、超音波画像診断装置や動物用内視鏡等の最新鋭の獣医療装置・器具を見学し(図2)、参加者からは病院関係者に多くの質問が寄せられた。また、伊藤教授の担当する腫瘍科の手術室では、超音波メスによる手術が動画で紹介された。

午後は、富士山麓をバスで案内し、山頂を雪に覆われ、笠雲がかかった霊峰の姿に、参加者からは歓声が上がった。

最終日の31日は、現在、福島県獣医師会が中心となり運営している福島県動物救護本部の第1シェルター(飯野シェルター)と第2シェルター(三春シェルター)を見学した。FAVA会員各国獣医師会からは、東日本大震災における動物救護活動に対して多額の義援金が寄せられており、被災地のシェルターの見学は参加者から強い希望のあった企画であった。

第1シェルターでは、森澤道明福島県獣医師会会長理事、吉田昭副会長理事、島崎昌三常務理事と、今回の

動物救護活動で中心的な役割を務めている河又淳獣医師が、FAVA参加者一行を出迎え、歓迎の挨拶の後、施設を案内した(図3)。

また、第1シェルターから第2シェルターへ、バスで移動する1時間あまり、同乗した河又獣医師を中心に、参加者からこの動物救護活動に関する質疑応答が行われた。質疑においては、シェルターにおける狂犬病を含む感染症対策や避妊去勢の必要性、運営資金の調達先や獣医師間の連携方法など、非常に有意義で活発な議論が行われた。

設備の整った第2シェルターの施設・運営は、参加者は皆高く評価し、強い関心と興味を持って見学していた(図4)。

帰途の車中において、チャン氏と事務局長のタイ国獣医師会のアチャリヤ女史からは、この福島動物救護活動に強い感銘を受けた旨、また、福島活動を災害時動物救護活動の一つのモデルケースとしてFAVA各国に広く紹介することとしたい旨の感想が述べられた。この見学の様子は、近々FAVAのホームページからも紹介される予定である。